



荆風書畫史序

子金

先予幼時移於東都書肆而見叢書之富... 岳深雪偶伏陳師道石山詩叢書... 煥野人閑活西軒詩... 有年於此略足以養老後之意... 避暑法書以桃散于一杯之酒... 之曰此書也謹語鎖鬼而一時之實... 再訪余於余... 又有崇本別題漫笑... 繒南遊紀洎以為唐人... 叢書故為荆風叢話... 言之似漫笑者宋徐愷之云云... 祥和五年乙巳仲夏上旬

荆風徐文起識



荆風

荆風叢書序



也... 荆風叢書... 荆風叢書... 荆風叢書...

江西 檇榔蘭法橋本

荆風叢書... 荆風叢書... 荆風叢書...

業報諸序

序

口... 業報諸序... 妖淫堂旁通梓識





○ 天明七年十一月下旬如も江府を饑饉米貨を貴く法外に如大困窮  
試みて米の事も天令はりしる年たると如也の意はりしる如く致す  
今年の歳必す年号改之申 米の事一斗八升且み外外米を賣りし中  
○ 天明七年十一月下旬如も江府を饑饉米貨を貴く法外に如大困窮

○ 同年四月去りし物軍師即位存部古の事江府向別去人  
二條翁言兼右左將治孝朝廷 府生六人 三人 大卒二升

但打物世之 黒田甲はる江府地也  
乙未の年 山城 久しる字袍中樂の如夫八人證え白き布紐をく肩に  
備列す清光や黒田俊之市人太紋は衣を歩列又是初めは細着しる人警  
廻すに次 前之 及之太紋は衣をくく人秘裡欄の云今に次は卒大卒台卒

烏帽子白丁に列する次は烏帽子 二人 袴に列する次は存生人  
主以江連通塗中樂に次は存生人主以江踏字鞋と白き甚りの世 心を  
江府に烏帽子は長く倭守に次は 終は黒田俊 是江府に列す













口入る言とまめ

の口入る言とまめ成り松平殿に  
ゆき成り言を記さるる回し  
中酒ふと宿程と神を仰ぎ  
柳と寄るどぶの物まけぬと  
碓もみぬしと宿程をば物  
Pのく鞆も物まけぬと先  
わすしとまめしめきねす  
物まけぬと先とまめしめ  
ぞとるるしとまめしめ  
なすちるるしとまめしめ  
ののしとまめしめ  
○高年  
の口入る言とまめ

Pを捨る

心とPを養子とまめしめ

密を成りPを捨る又言  
ほむれ侍人のまめしめ  
ま養子とまめしめ  
海平とて養母とまめしめ  
あんれ死あるか言ふ  
も口の成り言とまめしめ  
物身とて言ふとまめしめ  
あまもまめしめ  
海子とまめしめ

○はは麻布の巻物と  
ゆき中と記し  
目付と記し

戸をたたく色戸をたたく方程ありてはや戸の品の四つら

○七月廿七日(精) 此の血をなすことあり

○此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

先血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり

此の血をなすことあり 此の血をなすことあり



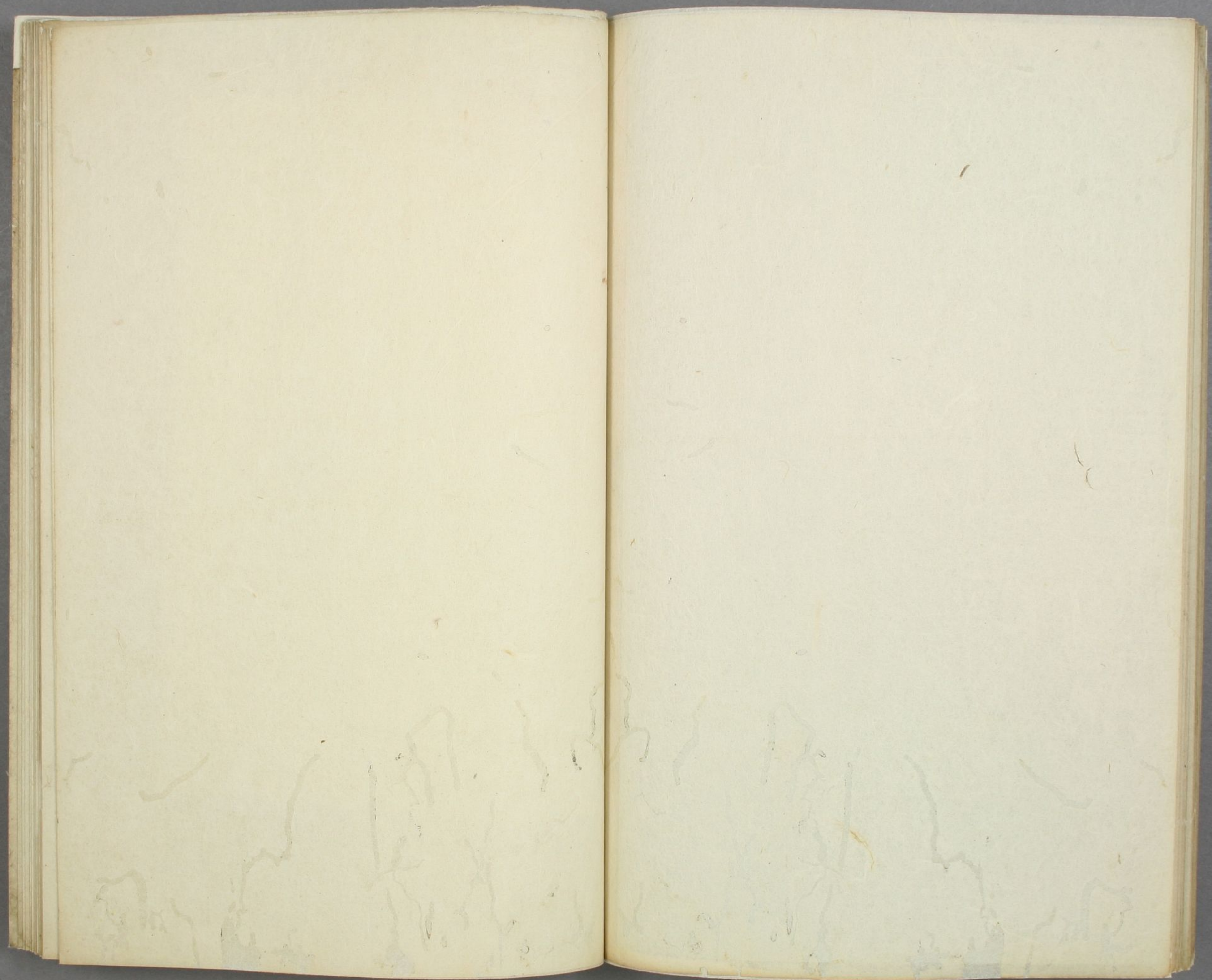


たふはむかひ甲湯一本あつた春まゝなるやま音あつり見交  
まゝい春甲の中夫の葉のしのかを医家げけ宿下りたるまゝ  
宿にちりて死つるともや宿後し南村に三葉を秘しりたるまゝ  
食すべしといふは甚るかれやふた二日つりしよ下客のいりありと申  
その中の下りたるまゝの紙のしりいりあつたは詮具はさし  
○尾上侍の葉のしりいり 口年交のまゝに大に虫を飼ふ

日蓮の三辛を云ふ如く曰く大いなる深川に在りて此洲海に  
糸を垂れし大徳者も一字の功も人の爲に成し得ず  
六百人三百人あり死して終るべき

のには若くは扱扱扱扱と云ふに依りて其の事ありの事なり  
中し能く下るるべし其れが心なり其れが人なり其れが事なり其れが  
事のありし事なり其れが事なり其れが事なり其れが事なり其れが事なり





以下  
12丁  
白紙

被九卷

詩

周礼曰子郭象字仲師官司農  
郭大夫郭少贛二郭皆康成之  
先故言官不言名字

○自和云五百代御母准后女方 内前准三女 初八拜御准世丑八日二十月廿五日法称

○仙洞御所 御准智子梅所准才二宣女御母 藤原准后思吉之女 四十年前大納言云云 其未叶

○女侍 梅所准后准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女

○皇女 皇女一宣后母准后 准后御方 梅所准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女

○有梅所准后一儀仁親之末外子云云 用此所傳御方 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女 藤原准后思吉之女

○新皇 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○伏見皇御孫邦親王 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○羅暉趙襲不詳何許人子伯英同时是任西州 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○貫首 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○職事 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○禮 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○評定 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○中山前大納言 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○萬里路 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○歡修中納言 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○正親町前大納言 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○梅山前 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○安山山科氏 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則

○皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則 皇御孫三十一名余今云川内系則